



低学年にも教えよう！
地域安全マップづくり

地域安全マップ作製指導マニュアル2

監修 小宮信夫
立正大学文学部教授（社会学博士）



東京の将来を担う子どもを犯罪の被害から守るためには、警察や自治体、学校、地域の方が連携して子どもを見守ることに加え、子ども自身に犯罪に遭わない能力を育成していくことが重要です。

これまで、東京都及び東京都教育委員会では、子どもの犯罪被害防止能力を育成する「地域安全マップづくり」を全小学校に普及するため、「地域安全マップ作製マニュアル」を作成するとともに、講習会や公開モデル授業等を実施してまいりました。現在では、多くの小学校で「地域安全マップづくり」を実施しています。多くの学校では、地図の学習を修了した中高学年の児童を対象に指導が行われていますが、低学年の児童が犯罪の被害者になる場合も少なくありません。低学年の児童にも、誰でも「入りやすく」誰からも「見えにくい」場所（犯罪が起こりやすい場所）を見極める能力を育成することが大切です。

そこで、東京都及び東京都教育委員会では、警視庁、足立区立千寿本町小学校の協力のもと、低学年の児童への「地域安全マップづくり」の指導方法について検討を重ね、本マニュアルを作成しました。各学校におかれましては、本マニュアルを参考に、低学年児童へ「地域安全マップづくり」を指導していただけますことを願っています。

なお、本マニュアルは、「地域安全マップ作製マニュアル」の続編です。「地域安全マップづくり」の理論的根拠等につきましては、前マニュアルを参考にしてください。

東京都地域安全マップ教材編集委員会





— 目次

- 3・・・Ⅰ「地域安全マップづくり」のポイント
- 4・・・Ⅱ 低学年の児童への「地域安全マップづくり」の指導
- 6・・・Ⅲ 低学年の児童の「地域安全マップづくり」実施例（詳細）
- 10・・・Ⅳ 継続的な「地域安全マップづくり」実施の必要性
- 11・・・高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト（作戦会議編）
- 12・・・高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト（事前指導編）
- 13・・・高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト（フィールドワーク編）
- 14・・・高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト（地図作製編）
- 15・・・高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト（発表会編・発表会後のまとめ編）
- 16・・・あんぜん・きけんクイズ どっちがどっち？
- 17・・・あんぜん・きけんクイズ こたえ



I 「地域安全マップづくり」のポイント

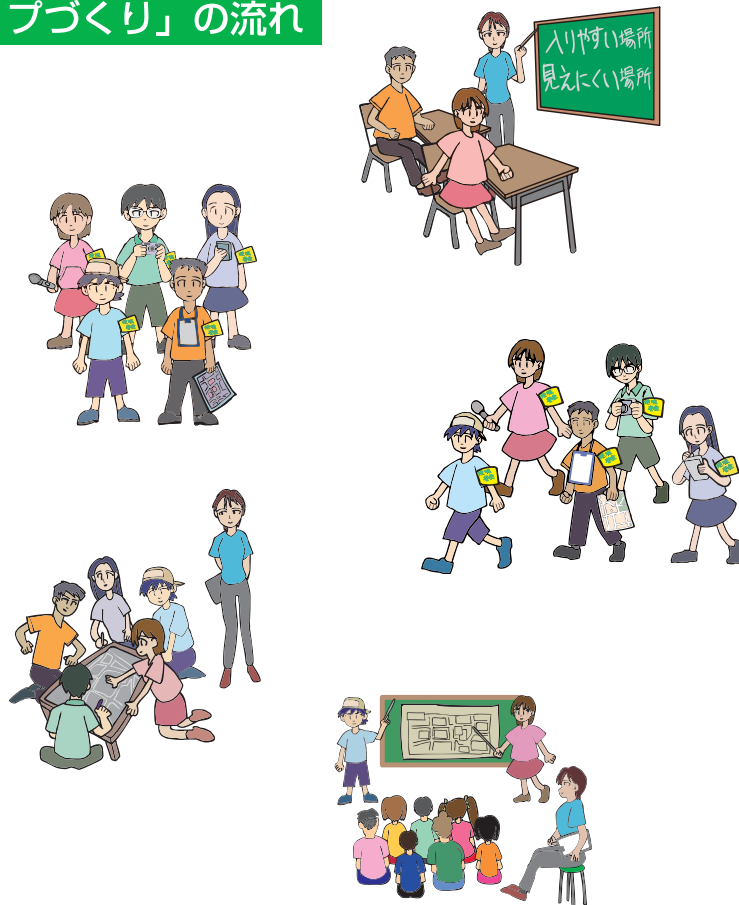
※詳しくは、東京都発行「地域安全マップをつくろう!」を参照してください

(1) 「地域安全マップづくり」とは?

- 子どもたちが通学路等を点検して「**犯罪が起こりやすい場所**」(誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい場所」)を地図に表す作業を通じ、児童自身の犯罪被害防止能力を高めることを目的としています。
- 不審者等の「**人**」ではなく、犯罪が起こりやすい「**場所**」に着目します。



(2) 標準的な「地域安全マップづくり」の流れ



(3) 「地域安全マップづくり」の効果

犯罪被害防止能力の向上に加え、次のような副次的効果が期待できます。

- コミュニケーション能力 (問題解決能力) の向上 【子ども】
- コミュニティへの関心 (愛着心) の向上 【子ども・大人】
- 非行防止 【子ども】
- 地域ぐるみの安全対策の推進 【大人】

Ⅱ 低学年の児童への「地域安全マップづくり」の指導

(1) 低学年の児童への指導上の課題

低学年の児童に「地域安全マップづくり」を指導する場合は、以下の課題があります。

- ① 地図の作り方、見方を学習していない
- ② 言葉だけでは、「入りやすく見えにくい」という概念を理解できない
- ③ メモの取り方に慣れていない

(2) 高学年の児童との共同学習

- こうした指導上の課題を克服するためには、低学年の児童は、地域安全マップの学習を経験した高学年の児童の補助を受け、事前学習、フィールドワーク、マップ作製、発表会を行うことが有効です。

※フィールドワーク、マップ作製などのグループワークを通じ、低学年の児童の社会性も育ちます。

※低学年の児童にわかりやすく説明するよう工夫することで、高学年の児童には学習成果の定着が図られるとともに、模範となろうとする意識が芽生えます。

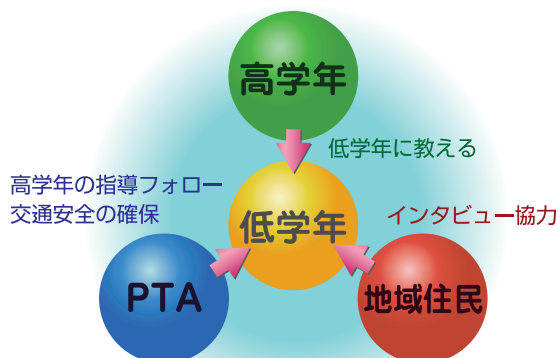


高学年と低学年が一緒に、班単位で学習します

(3) 地域・PTA の協力を求める

- フィールドワークの際に児童を見守るため、PTA等の協力を得て、各班に最低1名の保護者に同行してもらうとよいでしょう。
- 同行する保護者や地域ボランティア等には、事前学習にも参加してもらい、地域安全マップに関する理解を深めていただくとよいでしょう。
 - ※PTAの方には、中高学年で行う「地域安全マップづくり」を行う際は、フィールドワークの（班ごとの）指導員としての協力をお願いします。
- フィールドワークでは、地域住民に対してインタビューを行います。あらかじめ、地域の町会等に「地域安全マップづくり」について文書等で説明し、フィールドワークの際の見守りやインタビューの際の協力を依頼しておくといよいでしょう。

高学年、PTA、地域住民の連携による支援体制



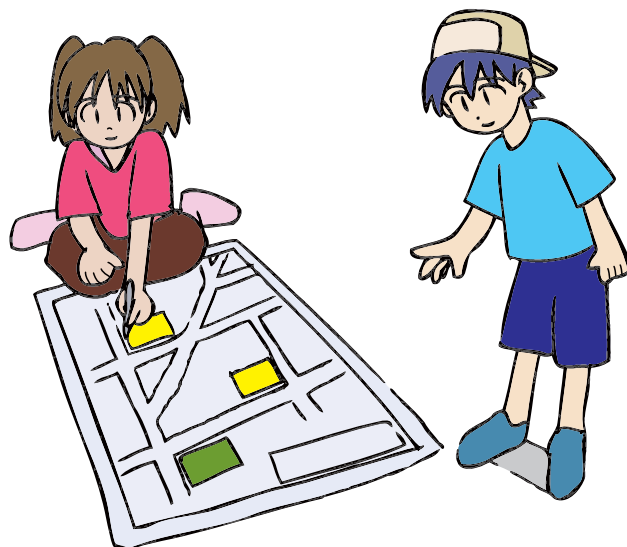
PTAや地域住民の協力を求めます

(4) 実施モデル

○ 高学年の児童が、以前作製した地域安全マップを参考にして、低学年の児童に教えます。

時限	項目	低学年	高学年
1	事前学習		・役割分担、低学年に「どこで教えるか」「どのように教えるか」を決める (作戦会議)
2	事前指導	・何をするのかを知る (おおよその目標を示す)	・低学年に犯罪が起こりやすい場所のキーワードを教える
3	フィールドワーク	・班ごとに、フィールドワークを行う、高学年は「どこが危険なのか、なぜ危険なのか、この場所ではどうしたらいいのか」を低学年に教える) ※安全確保のため各班に同行している PTA 等は、高学年が間違っただ指導をしている場合や、事故等の危険がある場合を除いて高学年に任せる	
4・5	地図作製	・班ごとに、高学年が大まかな地図を書き、低学年がそれぞれの場所のカード(写真とコメント)を作製し、高学年が低学年に確認しながら貼り付けていく	
6	発表会	・低学年の児童に確認しながら、「どこが」「なぜ」「どうしたら」を発表する ・低学年の児童にも発言させる	
	発表会後のまとめ	・高学年にお礼をする ・犯罪が起こりやすい場所での対処方法を知る ・学んだことを家庭で話す	・うまくできたこと・できなかったこと、地域の安全について話し合う

※上記の時限の割り振りは、あくまでも標準的な実施例です



Ⅳ 低学年の児童の「地域安全マップづくり」実施例（詳細）

低学年の児童に「地域安全マップづくり」を指導する際のポイントは次のとおりです。

— 事前学習 —

○ 作戦会議では、次のことを決めておきます。

① 役割分担

- ・ 高学年の児童から班長、副班長、地図係、写真係、インタビュー係を選びます。
- ・ 高学年の児童は、マンツーマンで低学年の児童を担当します。誰が誰を担当するのか、あらかじめ決めておきます。
→フィールドワーク中は、低学年の児童にも写真撮影、インタビューを行わせます。

② どこで教えるか

- ・ 高学年の児童が以前に作製した地域安全マップを参考にして、犯罪が起こりやすい場所、安全な場所についてどこの場所で教えるか、それぞれ2～3箇所程度決めておきます。
※当該地域で以前にフィールドワークを行った児童が中心となり、みんなで協議して決めます。

③ どのように教えるか

- ・ 言葉だけではわかりにくいことは、ロールプレイなどの実演を交えて説明します。
- ・ ごみ、落書きのある場所は、見つからずにごみを捨てたり、落書きができる（周りの人の関心が低い）「見えにくい場所」と教えます。
- ・ インタビューのあいさつの仕方やプライバシーへの配慮など、守るべきマナーを教えます。

→ 以上のことを決めたら、教える場所を下見などして確認するとよいでしょう。



高学年の作戦会議

事前指導

- まず先生方が、低学年の児童に基本的な内容等を教えます。
- 「入りやすく、見えにくい」場所を説明するには、椅子やパーティションを使って実際に「入りやすく、見えにくい場所」を作って教えると効果的です。

危険な場所



入りやすく
見えにくい

安全な場所



入りにくく
見えやすい



低学年の担任が基本的な内容を教えます

※「見えにくい場所」については、死角、地域が無関心な場所（落書きやごみが放置されている場所等）、人の視線がない場所（周りに田畑が広がる場所や屋上等）、不特定多数の人が集まる場所（駅前広場や家電量販店のゲーム体験コーナー等）の4種類がありますが、低学年の児童には、混乱しないように、「死角」と「地域が無関心な場所」に絞って指導してください（ただし、地域によって必要性が高い場合には、残りの2種類についても指導してください）。

※「地域が無関心な場所」については、中高学年の児童には、地域の人に知らんぷりされている（見て見ぬふりをされている）場所として、独立して指導しますが、低学年の児童には、混乱しないように、「死角」に含ませて、「見えにくいから、ごみが捨てられ、落書きされる」というように、見えにくい場所の「証拠」としての側面を強調してください。



ごみ（放置自転車）



落書き

- 次に、高学年の児童が、自分達が以前に作製した地図を活用し、低学年の児童に危ない場所・安全な場所とその理由、フィールドワークでのインタビューの仕方などを教えます。



以前作製した地図を活用して、高学年が低学年へ教えます

— フィールドワーク —

- 高学年の児童が班長等の役割を担いますが、低学年の児童にも写真撮影、インタビューを積極的に行わせます。
- 高学年の児童は、低学年の児童の手をつないで、車道側を交通事故に遭わないように気をつけて歩きます。
- 「見えにくい場所である証拠」として、ごみや落書きのある場所を説明します。
- 言葉で説明するのが難しい場合には、甘言で誘拐するロールプレイ、実際に壁や車の陰に立たせるなど体験的に教えます。
- インタビューを通し、地域の人に見守られていることを教えます。



高学年が低学年の手をつないで誘導します



高学年が低学年に写真撮影を指導します



高学年が低学年に誰からも「見えにくい」場所を体験させます

インタビューのしかた（例）

- ・「こんにちは。今〇〇小学校で地域安全マップを作っています」
- ・「もうしわけありませんが、お話を聞かせていただけませんか？」
- ・「犯罪にあうかもしれないと不安になる場所がありますか？」
- ・「ご協力ありがとうございました。」



地元商店街の方にインタビューします

— 地図作製 —

- 作製するマップは、デフォルメしたもので構いません。
（正確な地図を作ることが目的ではありません）
※フリーハンドで描けば、世界でたった一つの、かけがえのない地図になるので、児童の創作意欲が高まります。
- 高学年の児童が、大まかな道路や建物等を書きます。
- 低学年の児童に写真の切り抜き、コメントの作成等を行わせます。
- 「入りやすい、見えにくい」などのキーワードをあらかじめ書いたシールなどを用意しておくことでコメントが作成しやすくなります。
- 高学年の児童が、低学年の児童に確認をしながら、写真やコメントを貼りつけていきます。



高学年が低学年にコメントの書き方を教えています
そして、低学年も作業に参加します



高学年が写真・コメントの貼り付け位置を確認します

発表会

- 発表の内容は、高学年の児童が、自分の班の低学年の児童に確認しながら、低学年の児童でも理解できるように、なるべく易しい言葉で発表するように指導します。
- 低学年の児童には、感想だけでも良いので発表します。



高学年とともに、低学年も発表します



他の班の児童や保護者を前に発表します

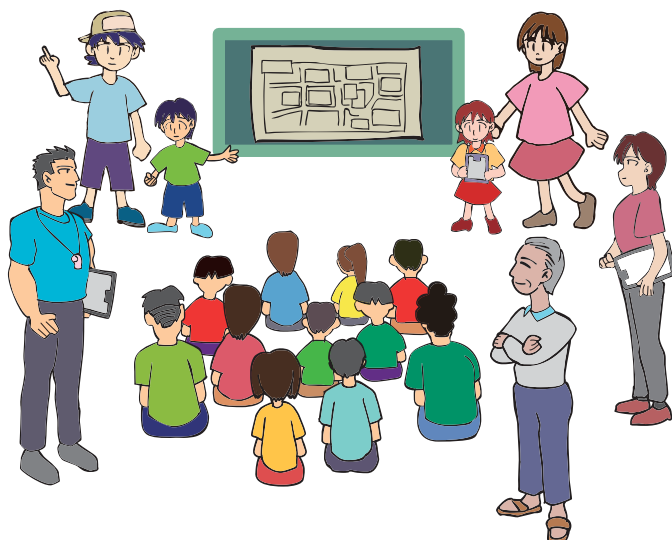
発表会後のまとめ

低学年

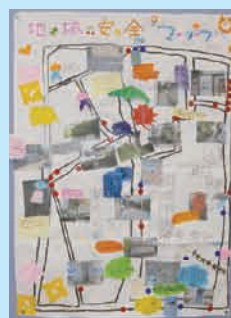
- 危ない場所への対処方法を教えます。
 - ※中高学年の児童に対しては、「犯罪が起こりやすい場所」には「行かない」、行かなければならない場合は「複数で行く」「注意して行く」と教えていますが、低学年の児童へのマップ指導の際には、「**行かない**」に絞って指導します。
- 高学年の児童やフィールドワークの際に見守ってくれた保護者や地域の人にお礼します。
- 学んだことについて、家庭で話すように指導します。

高学年

- うまくできたこと、できなかったことをまとめさせます。
 - ※低学年の児童に教えることで、高学年の児童自身も多くのことを学びます。今回の経験で何を学んだのか振り返らせます。
- 地域の安全について話し合いを深めさせます。
 - ※地域の一員としての自覚が高まります。



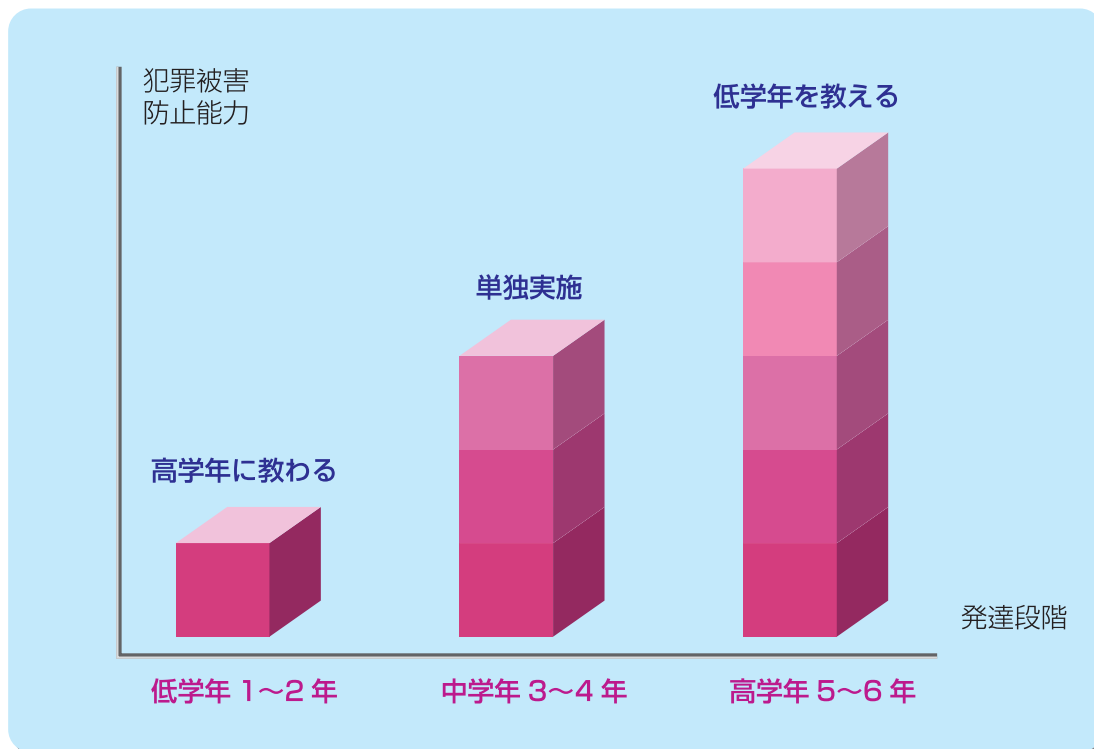
地域安全マップ作品例



Ⅳ 継続的な「地域安全マップづくり」実施の必要性

- 低学年の児童も、既に地域安全マップを学んだ高学年の児童と一緒に学習することにより、危険予測能力の向上が期待できます。
- 低学年の時に高学年と一緒に学習、中高学年の時に単独で学習、さらに高学年時に低学年に対して指導というステップを経ることにより危険予測能力がより定着します。

発達段階に応じたマップづくり



高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト

作戦会議 編

チェック	内容	解説
	班長、副班長、地図係、写真係、インタビュー係の班編成を決めましょう。	低学年の児童は、決まった役割を担当しませんが、撮影、インタビュー、地図作製等の作業は、高学年の指導・補助のもと、積極的に参加します。
	誰がどの低学年の児童に教えるのかを決めましょう。	低学年の児童には、一人一人マンツーマンで教えます。
	自分達で作ったマップを手元に準備しましょう。	事前指導では、自分達で作ったマップを使いながら教えます。
	マップを見直しましょう。	マップを見て、もし現地をもう一度確認したい場合は、まちに出て確認してみます。
	マップの中で、「入りやすく、見えにくい」危険な場所を説明するための場所を2～3箇所程度選びましょう。	事前学習では地図を使って説明し、フィールドワークの際に現場で教えます。
	マップの中で、安全な場所を説明するための場所を2～3箇所程度選びましょう。	同上
	「入りやすく、見えにくい」場所の証拠となる、ごみ・落書きがある場所を2～3箇所選びましょう。	同上
	「入りやすく、見えにくい」場所がなぜ危険なのか、説明する方法をまとめましょう。	低学年の児童にもわかりやすい言葉を考えます。言葉だけではわかりにくいことは、ロールプレイなどの実演を交えて説明します。
	ごみ・落書きがある場所がなぜ危険なのか、説明する方法をまとめましょう。	同上
	インタビューのあいさつの仕方、写真撮影でのプライバシーへの配慮について教え方を考えましょう。	低学年の児童に、守るべきマナーを教えます。



高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト

事前指導 編

チェック	内容	解説
	低学年の児童に自己紹介をしましょう。	高学年の児童は、自分が班編成のどの仕事を担当し、どの低学年の児童とペアになるのかを話します。
	自分達で作ったマップを手元に準備しましょう。	自分達で作ったマップを使いながら教えます。
	犯罪が起こりやすい場所はどのような場所か教えましょう。	わかりやすい言葉で、実演を交えて説明します。
	どのような場所が安全か教えましょう。	同上
	ごみ・落書きがある場所について教えましょう。	同上
	マップの中で、安全な場所を説明するための場所を2～3箇所程度選びましょう。	同上
	フィールドワークの際のインタビューの仕方を教えましょう。	低学年の児童にもインタビューに参加させます。「犯罪」という言葉を使って質問するように指導します。
	写真撮影の仕方を教えましょう。	低学年の児童にも写真撮影をするよう指導します。
	プライバシーの配慮について教えましょう。	他人の敷地に入らない、表札・ナンバープレート等は撮影しないことを教えます。
	クイズを出すなどして、低学年の児童に考えさせましょう。	全部説明してしまうと、低学年の児童が受身になってしまいます。



高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト

フィールドワーク 編

チェック	内容	解説
	交通事故に遭わないように見守り、指導の補助をしてくれる大人の方（保護者、安全ボランティアの方など）にあいさつをしましょう。	大人の方が皆さんに話す注意事項をよく聞きましょう。
	文房具、カメラなどの必要なものを持ち、腕章や帽子等を身につけましょう。	忘れ物がないように、下の「持ち物リスト」を確認します。
	出発の掛け声をかけましょう。	元気よく出発します。
	担当する低学年の児童の手をつなぎましょう。	低学年の児童が交通事故にあわないように注意して歩きます。
	犯罪が起こりやすい場所について教えましょう。	わかりやすい言葉で、実演を交えて説明します。
	安全な場所について教えましょう。	同上
	ごみ・落書きがある場所で、危険について考えさせましょう。	同上
	入りやすく見えにくい場所をロールプレイを盛り込んで説明しましょう。 (例)「ネコがいるよ」と言って駐車場の奥に低学年の児童を連れ込む。	具体的な動きを入れると効果的です。
	クイズを出すなどして、低学年の児童にも積極的に参加させましょう。	全部説明してしまうと、低学年の児童が受身になってしまいます。
	低学年の児童にも写真撮影とインタビューを行わせましょう。	低学年の児童も作業を行わないと、受身になってしまいます。

インタビューのポイント

- あいさつをきちんとする
- 時間があるか相手に確認する
- 「犯罪にあうかもしれないと不安になる場所はありませんか？」のように「犯罪」という言葉を使って聞く
- お礼を言う

フィールドワーク持ち物リスト

- 筆記用具
- インタビューカード（メモ）
- バインダー
- カメラ
- 住宅地図
- 腕章、帽子など（身につけるもの）

高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト

地図作製編

チェック	内容	解説
	高学年が大まかな道路等を描きましょう。	低学年の児童は、まだ地図を勉強していません。高学年が下地となる地図を描きます。
	折り紙の切り方、貼り方などを教えましょう。	担当の低学年の児童を丁寧にマンツーマンで教えます。
	低学年の児童がコメント作成をしやすいように工夫しましょう。 (例) シールなどで「入りやすい、見えにくい」などのキーワードをあらかじめ書いたものを用意しておきます。	コメントの作成は、特に低学年の児童には難しい作業ですので、皆さんが教えてください。
	コメントを貼る時は、位置を低学年の児童に確認しながら行いましょう。	低学年の児童は地図上の位置がよく理解できません。



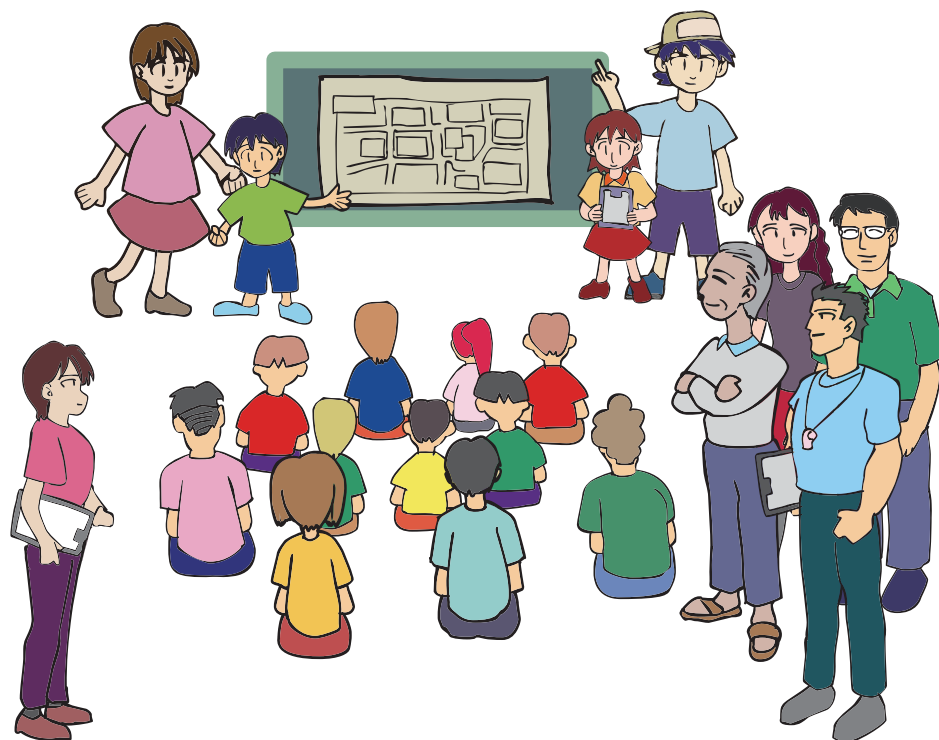
高学年児童用 地域安全マップ作製手順チェックリスト

発表会 編

チェック	内容	解説
	自分の班の低学年の児童に確認しながら、どのようなことを話すのか考えましょう。	話す内容をメモに整理すると、考えがまとまります。
	「どのようなことを学び、今後どのようにいかしたいのか」を話しましょう。	難しく考えず、感想だけでも構いません。
	低学年の児童に発表の仕方を教えます。	感想だけでも良いので、必ず低学年の児童にも発表させます。

発表会後のまとめ 編

チェック	内容	解説
	うまくできたこと、できなかったことをまとめましょう。	低学年の児童に教えることで、皆さん高学年自身も多くのことを学びます。今回の経験で何を学んだのか振り返りましょう。
	地域の安全について話し合いを深めましょう。	地域の一員としての自覚を高めるようにします。



どっちが、どっち？

あぶないばしょはどっちかな？

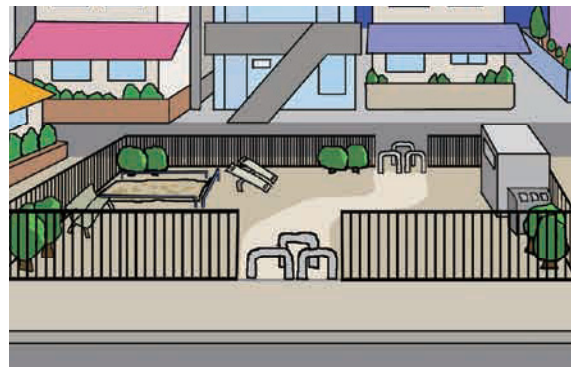
● じどう車が いきかうどうろ



● じゅうたくちのほそいみち



● こうえん



おしえてもらったことをいえにかえて、はなしましょう。

こたえ

きけん



しゃどうとほどうのあいだにガードレールがないので、車からすぐにちかづけます。

あんぜん



ガードレールがあるので、車からはすぐにちかづけません。

きけん



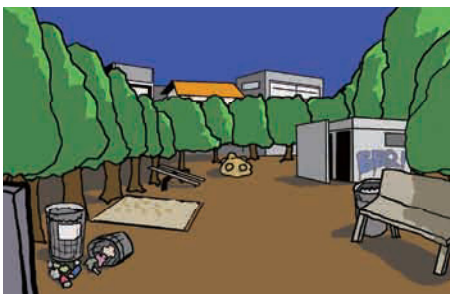
たかいコンクリートのへいがあり、いえのまどからみちをあるいている人が見えません。だから、らくがきもあります。

あんぜん



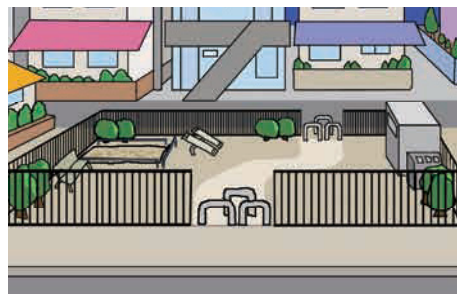
フェンスなので、いえの中らみちがよく見え、なにかあったらいえの人がたすけにきてくれます。

きけん

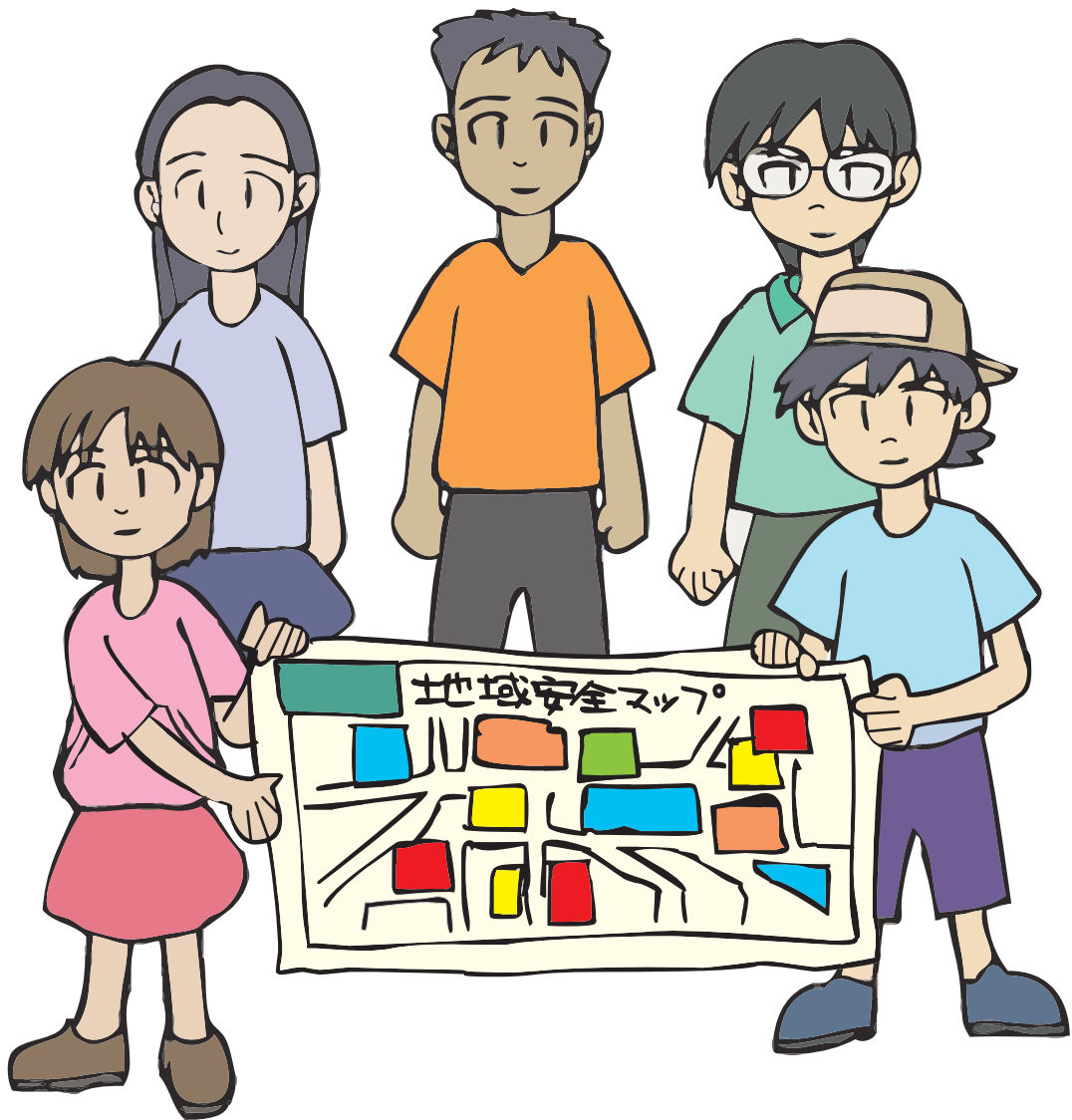


まわりをたくさんの木がかこんでいて、そとから中がよく見えません。トイレのうしろはわるい人がかくれるばしょになります。

あんぜん



フェンスでかこまれ、どこからでもよく見えて、わるい人がかくれるばしょがありません。



低学年にも教えよう！
地域安全マップづくり

地域安全マップ作製指導マニュアル 2

平成 20 年 3 月発行 登録番号 (19)65

監修者のプロフィール

小宮信夫 (こみや・のぶお)

立正大学文学部教授(社会学博士)。中央大学法学部法律学科卒業。
 ケンブリッジ大学大学院犯罪学研究科修了。
 法務省、国連アジア極東犯罪防止研修所などを経て現職。
 専攻は犯罪社会学。地域安全マップの考案者。
 現在、東京都「地域安全マップ専科」総合アドバイザー、群馬県「生活
 安全教育アドバイザー」、長崎県「安全・安心まちづくりアド
 バイザー」など。
 著書に、『犯人目線に立て！——危険予測のノウハウ』（PHP 研
 究所）など。

監 修 立正大学文学部教授(社会学博士) 小宮信夫
 編 集 東京都地域安全マップ教材編集委員会
 委員長 小宮 信夫 立正大学文学部教授(社会学博士)
 委員 若林 彰 教育庁指導部
 委員 安間 英潮 教育庁指導部
 委員 川上 智 教育庁指導部
 委員 齋藤ひとみ 警視庁生活安全部
 委員 後藤 了 青少年・治安対策本部総合対策部
 委員 永岡 和喜 青少年・治安対策本部総合対策部
 委員 浜崎 慎吾 青少年・治安対策本部総合対策部
 企 画 東京都青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課
 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
 制 作 株式会社峰尾研究所
 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 2-6-2



東京都

東京都青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号